なぜ今、MCPなのか?

~AIに"指示できる時代"を支えるプロトコル~

◆ 今までは「答えるAI」だった

- ChatGPTなどの生成AIは、質問に答えたり文章を要約したりしてくれる。
- でも、それだけでは実際の作業や操作まではできない。
- 例:「Gitで新しいリポジトリを作って」と言っても、AIは直接操作できない。
- デ 「AIにできること、意外と少ない?」と思ったことはありませんか?

🔐 次のステージ:「AIに行動させる」

- 最近のAIは、"答える"から"行動する"へ進化している。
- 「検索して」「資料をまとめて」「ファイルを探して」…
- そんな実務的な指示をAIが実行できる時代が始まりつつあります。
- ★ 行動するためには「何をどう行動するのか」といった決まりが必要です。

☀ その鍵が「MCP」 — Model Context Protocol

- MCPとは、AI(LLM)とツールのあいだの 共通の"呼び出し言語"です。
- Anthropicが2024年11月にオープンソースとして発表した。
- AIがツールを使うための「USBポート」のようなもの。
 - ツールの種類はたくさんあっても、接続方法は統一されている。
 - ツールに修正があっても、接続口や本体を修正しなくて良い。
- Microsoftも2025年にWindowsへのMCP統合を発表し、大注目!

MCPの構成

- MCPホスト:LLM、チャット画面、MCPクライアントを内蔵したアプリ
 - Claude Desktop, Cline, roo code
- MCPクライアント: MCPサーバーとやり取りを行う
 - 基本的にMCPホストに内蔵されている
- MCPサーバー:複数ツールを持っていて実際に処理を行う
 - Githubで公開されているものを使ったり自作したりする
 - リモートだったりローカルだったりする

Q MCPの仕組み(ざっくり)

- 1. MCPサーバーが「自分はこういう機能がありますよ」という **自己紹介カード(= メタデータ)** をLLMに渡す
- 2. LLMがユーザーから質問を受けると、そのカードを見て自然言語から適切なツールを選ぶ
- 3. 選ばれたツールをMCPサーバーが実行して結果をLLMに返す
- MCPは、上記の呼び出し方・受け渡し方を共通化したプロトコルです

◎ APIではダメなのか?

項目	従来のAPI連携	MCP
接続方法	APIごとに異なる	基本部分は統一
保守性	仕様変更のたびにコードを修正	仕様が変わってもLLMはそのまま使える
拡張性	ツール追加に複雑な実装が必要	登録すればLLMがすぐ使える

☆ MCPは仕様書ごとLLMに渡すことで、ツールの変更を動的に反映できる

| 活用イメージ(身近な業務にどう使える?)

- ファイル操作:回答をそのままファイルに反映して保存する
- 📃 Git操作:新規リポジトリ作成、コミット履歴の確認などを自然言語で
- メール操作:メールを検索したり要約したり送信したりする
- ~ 論文検索:arXivなどの最新研究をAIに代わりに探してもらう
- M 社内DBの検索:「○○部のPLは?」→SQLなしで結果が出る
- ~ チャットの投稿:投稿内容をレビューしてもらってそのまま投稿する

↑ MCPサーバーの動かし方

1/4. MCPサーバーを作成する

fastmcpを使うことで、 **関数をそのままツール化** 可能

```
from fastmcp import FastMCP
mcp = FastMCP(name="greet-mcp")

@mcp.tool() # 1つのpyファイルに複数のツールを作成可能
def greet(name: str)-> str:
   """nameに挨拶する"""
   return f"Hello, {name}!"

mcp.run(transport="stdio")
```

このファイルを実行するだけでMCPサーバーが立ち上がり、LLMから呼び出せます★

→ MCPサーバーの動かし方

2/4. MCPホストのMCP設定ファイルを編集する

MCPホストには必ず「mcp.json」のようなMCP設定ファイルがある

```
"mcpServers": {
 "greet-mcp": {
   "command": "uv",
   "args": [
     "--directory",
     "C:/Users/shun/OneDrive/デスクトップ/ローカル作業用/勉強会/MCPServer",
     "run",
     "greet mcp.py"
```



★ MCPサーバーの動かし方

3/4. MCPホストがMCPサーバーを立ち上げる

MCPホストがMCPサーバーを立ち上げてメタデータを読み込んだ状態



MCPホストのLLMのシステムプロンプトにメタデータが組み込まれている様子 メタデータを自動で反映するため、MCPホストはツールの変更を即座に反映できる

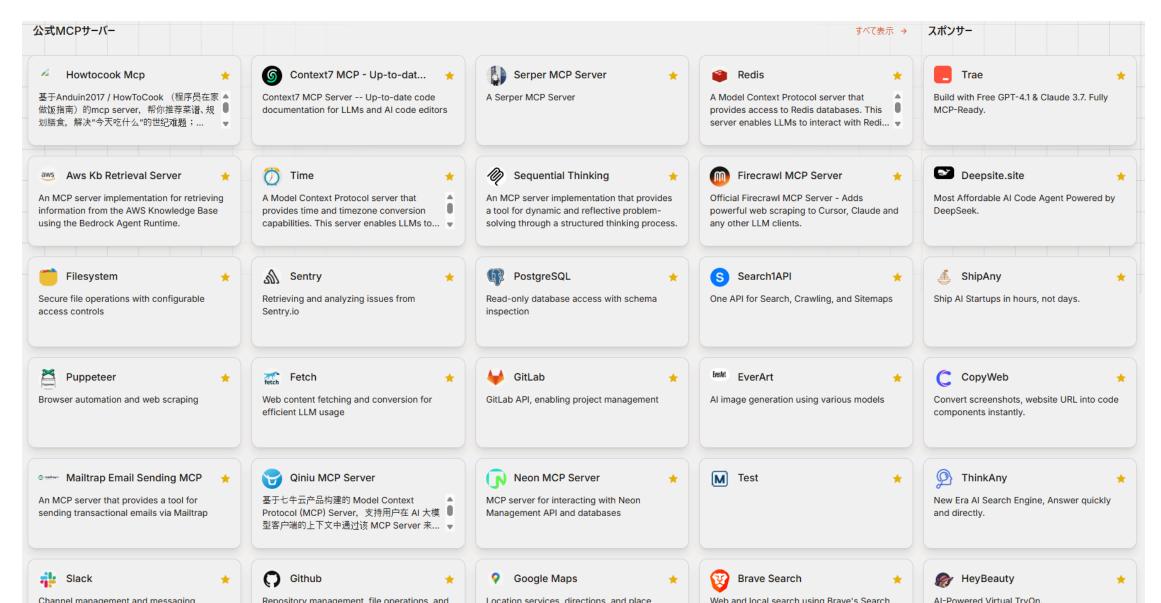


★ MCPサーバーの動かし方

4/4. MCPホストでMCPサーバーを実行する



自分で作らなくても公式のMCPサーバーを使うことができる。





- 使えるMCPホストが限られている
 - vscodeの拡張機能であるClineかroo codeぐらい
- オープンソースのMCPサーバーを立ち上げられない
 - 公式MCPサーバーの立ち上げはnode.jsやdockerが基本
- オープンソースのMCPサーバーのツールを使えない
 - ツールがAPIを呼び出したりインターネットに接続する場合が多く、社内の制限に引っかかる

≫ 社内活用の課題への対応

- 使えるMCPホストが限られている
 - vscodeの拡張機能であるClineやroo codeぐらい
 - →MCPホストサーバーを立ち上げてブラウザから使えるようにする
- オープンソースのMCPサーバーを立ち上げられない
 - 公式MCPサーバーの立ち上げはnode.jsやdockerが基本
 - →pythonへの書き換え
 - →MAWSで立ち上げてリモートMCPサーバーとする
- オープンソースのMCPサーバーのツールを使えない
 - ツールがAPIを呼び出したりインターネットに接続するものが多く、社内の制限に引っかかる
 - →APIのホワイトリスト登録
 - →WEBサイトへの通信はプロキシを通す

まとめ

- MCPとはLLMとツールを接続するための通信規約のこと
- MCPのメリットは
 - LLMとツールを独立させられること
 - 非エンジニアでも自然言語でツールが使えるようになること
- 今後のAI活用において、USB並みに普及する可能性のある通信規約です ↑

№ デモなど

- git操作
- DB操作

補足など

- MCPサーバーが提供するのはツール以外に、リソース、プロンプトの計3種類
- MCPサーバーはメタデータを渡す前に認証を行う。基本的には認証トークン。
- MCPサーバーの通信はSTDIO、SSE、HTTP